

週 目 点



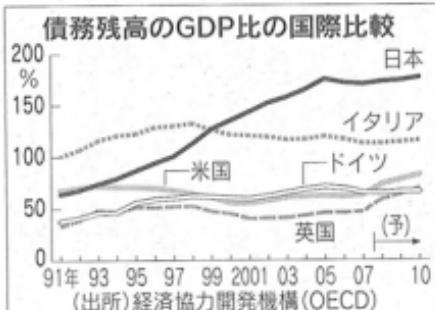
早稲田大学教授

川本 裕子

政府は二十四日、二〇〇九年度予算案を閣議決定する。

一般会計総額は八十九兆円に迫り、当初予算ベースで二〇〇九年度の八十四兆九千八百億円を超えて過去最大となる見通しだ。税収が景気後退で落ち込むなか、支出拡大や減税の話が先行している。このままでは国債発行額も急拡大する。ことは必至で、先進国の中でも飛びぬけて高い日本の累積国家債務の国内総生産(GDP)比をさらに上昇させてしまうだろう。

将来の消費税増税の時期明示の是非が与党間で議論されているが、そもそも增收分を



▶09年度予算の政府案決定(24日)

緩む財政規律、募る不安

社会保障以外の歳出に回す余裕が今の国家財政にないことは理解されているのだろうか。社会保障でも使い道について抜本的な改革が必要だが、社会保障以外の予算は今後ともさらなる削減や効率化の推進が不可欠だ。貴重な財政資金の使い方に今以上に知恵を絞らなければならない。支出の増加は緊急マクロ経済政策としての必要もあるが、いわゆる「埋蔵金」でそれを貯うならば、累積債務の削減に、これまでなぜ埋蔵金を使わなかったのかという財政政策への根本的な疑問が生じる。財政とは信頼であり、規律がなくなれば負担の先送りは止めどころがなくなる。規律が緩むなか、財政出動で経済を支えるといわれても、国民には不安が募る。景気心理の好転もおぼつかない。将来への付け回しは自分の子供や孫の世代に及び、自分の年金にも響くことに国民は気づき始めている。来年は財政規律回復の年となることを大いに期待したい。

社会保障以外の歳出に回す余裕が今の国家財政にないことは理解されているのだろうか。社会保障でも使い道について抜本的な改革が必要だが、社会保障以外の予算は今後ともさらなる削減や効率化の推進が不可欠だ。貴重な財政資金の使い方に今以上に知恵を絞らなければならない。支出の増加は緊急マクロ経済政策としての必要もあるが、いわゆる「埋蔵金」でそれを貯うならば、累積債務の削減に、これまでなぜ埋蔵金を使わなかったのかという財政政策への根本的な疑問が生じる。財政とは信頼であり、規律がなくなれば負担の先送りは止めどころがなくなる。規律が緩むなか、財政出動で経済を支えるといわれても、国民には不安が募る。景気心理の好転もおぼつかない。将来への付け回しは自分の子供や孫の世代に及び、自分の年金にも響くことに国民は気づき始めている。来年は財政規律回復の年となることを大いに期待したい。